

特集：2006年度日本数学会出版賞受賞者のことば

佐武一郎氏 著「線型代数学」

出版賞受賞のことば

今年（2006年）3月の学会のとき、思いがけず日本数学会出版賞をいただいた。大変有り難いことと思っている。

この「線型代数学」（最初は「行列と行列式」）が出版されたのは1958年春なので、もう50年近くも昔の話である。丁度その前年の秋に、パリのポアンカレ研究所に行くことが決まっており、東大の数学教室ではその学年の通年講義はしなくてもよいという、非常に寛大な処置をしていただいた。その余暇を利用して裳華房に以前から依頼されていたこの本を書きあげることができたのである。

序文にもかいたように、この本は教科書というより自習書、参考書として読んでもらうことを念頭に、内容も事実よりも概念の説明に重点をおいてかいた。そのため、今読み返してみると同じことを見方を変えて繰り返し説明しているような所が多い。しかし意外に多くの方々に読んでいただけたことは、このような特徴を認めていただけたのかと思ひ感謝している。

本をかくということは、著者に思いがけない恩恵を与えてくれることがある。私がT-病院に入院して手術を受けたとき、担任の医師の方から、「あなたはもしかして”行列...”をかいたS-さんではありませんか？」ときかれ、「そうだ」というと、「あの本にはずいぶん苦しめられましたよ」といいながらも、ある親近感をもって接していただいた。そのお陰でこちらも安心して手術を受けられたのであった。

著書は著者とは独立の運命をたどるものなので、著者の期待とは逆の評価をうけることも珍しくはない。しかしこの本に関する限り、私は非常に幸運な著者であった。この機会をかりて、改めて裳華房編集部の方はじめ、この本を支援して下さった多くの方々に、心からお礼を申し上げたい。

佐武一郎（カリフォルニア大学・東北大学名誉教授）